【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公開番号】特開2005-129545(P2005-129545A)
【公開日】平成17年5月19日(2005.5.19)
【年通号数】公開・登録公報2005-019
【出願番号】特願2004-376596(P2004-376596)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０１Ｊ　31/12
　Ｈ０１Ｊ　29/86
【ＦＩ】
　Ｈ０１Ｊ　31/12　　Ｃ
　Ｈ０１Ｊ　29/86　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成17年10月4日(2005.10.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　以上の目的を達成するため、本発明では、複数のガラス部材をシール材を用いて封着部分が方形となるように封着し構成したガラス外囲器であって、
　前記シール材とガラス部材との間にヒーターを具備し、前記ガラス部材は、方形形状のフェースプレートおよびリアプレートを含み、該フェースプレートおよびリアプレートの方形の角部が、丸められた形状あるいは切り落とされた形状を有することを特徴とする。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
　また、本発明では、複数のガラス部材をシール材を用いて封着部分が方形となるように封着し構成したガラス外囲器であって、
　前記シール材とガラス部材との間にヒーターを具備し、前記ガラス部材は、方形形状のガラス外枠を含み、該ガラス外枠の方形の角部が、丸められた形状あるいは切り落とされた形状を有することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
　このように、シール材とガラス部材との間にヒーターを具備し、更に前記ガラスフェースプレートおよびガラスリアプレートの方形の角部が、丸められた形状あるいは切り落とされた形状を有すること、又は該ガラス外枠の方形の角部が、丸められた形状あるいは切り落とされた形状を有することにより、ガラス外囲器を封着する際の熱エネルギーの損失が抑制でき、温度上昇、下降に要する時間を短縮できるだけでなく、ガラス外囲器の封着

部分における温度分布のバラ付きを低減し、封着時のガラス部材の熱応力を低減できる。このため、ガラス部材相互に熱歪みが残らず、ガラス外囲器として、良品が得られる。